

農作業 テクニカル ダイアリー

今後の管理
〜被覆の除去と防寒対策〜

生長点がトンネルの上部へ接触すると焼けの原因となるため、ビニールは上部へ接触する前(3月中下旬を目安)に切りましょう。また、生育が進み過ぎてしまう場合は、早めの摘芯を心掛け、整枝も早めに行いましょう。

ここ数年、トンネルの除去後

令和6年産について

令和6年産のソラマメは、播種時期に気温が高く、発芽からの生育が早くなったため、定植が早まり、やや徒長した傾向にありました。また、強風の影響でマルチが剥がれる圃場が一部で見られ、今後の生育に影響が出ると思われましたが、その後の天候も安定していたため、おおむね順調に生育しています。

今後は気温が高くなり、生育も早まるのが予想されます。例年通りの作業ではなく、生育状況を確認しながら管理をしてください。

令和5年産米の
振り返りと高温対策

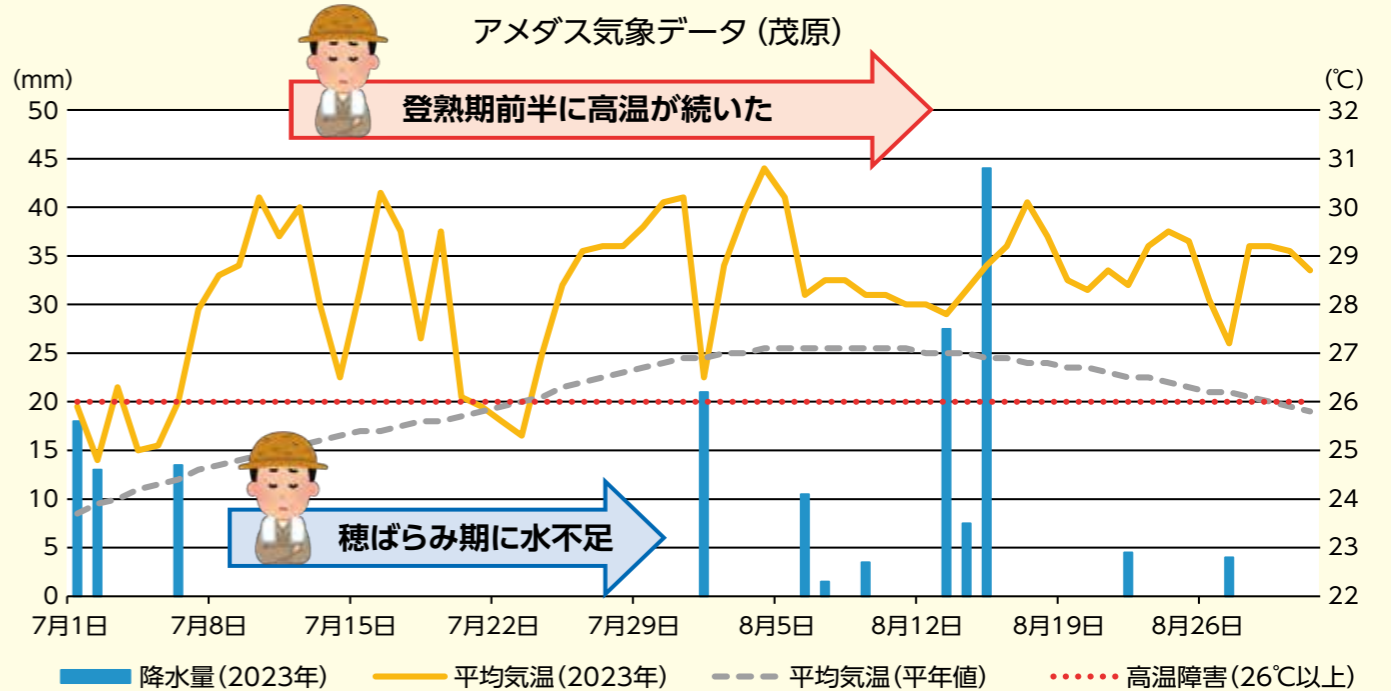
令和5年産米の早生品種は7月10日ごろ、コシヒカリは7月20日ごろから出穂期を迎えましたが、そのころは高温が続いた上に降雨もなく、多くの圃場で高温登熟障害が起きやすい状況でした。

登熟期前半に当たる出穂期後20日間の日平均気温が26℃を超えると、登熟の早期停止による減収、白未熟粒(写真①)や胴割粒の発生による品質低下を引き起こします。また、穂ばらみ期の水不足も減収につながる大きな要因の一つです。表①を参考にして次年度の高温対策を行いましょ。



写真① 白未熟粒と整粒の比較

図① 令和5年産米の出穂期前後の気象データ



表① 高温登熟障害への対策

項目	内容	対策
土づくり	登熟期に葉色が低下すると高温登熟障害が助長されるため、登熟期に葉色を落とさないことが重要。	堆肥などの有機質肥料を施用することで 地力増進に努める 。
品種変更	高温耐性は、ふさおとめ、ふさこがね、コシヒカリの順に強い。	高温登熟障害に強い品種への変更 を検討する。
適正な水管理	穂ばらみ期の水不足は、花や花粉の形成が阻害されるため不稔粒が増加して減収につながる。また、登熟期の高温は、デンプンの蓄積停滞により乳白米や網下米の増加につながる。	出穂期3週間前から湛水管理 を行う。登熟期前半に高温が続く場合は、 用水のかけ流しや間断かんが により水温上昇を抑える。落水は出穂後25日以降とし、 早期の落水は避ける 。
登熟期の葉色維持	登熟期の葉色が淡いと光合成低下によりデンプン不足となり、乳白米や網下米の増加につながる。一発肥料を使用した圃場においても、高温により肥料の溶出が早まっている場合あり。	出穂期7〜5日目の葉色が極端に淡い場合、窒素成分で10アール当たり1キロ追肥 を行う。 ※出穂期の葉色は、カラスケール値で4以上が目標。

【穂ばらみ期…出穂の約2週間前、出穂期…圃場の約5割が出穂した日、登熟期…開花〜収穫までの期間】
◎葉色の参考となる資材(うちわ)を各営農・経済センターにご用意していますので、ご希望の方はお問い合わせください。

に低温・暴風の被害が見られます。トンネル周囲のビニールは、防寒や暴風対策として4月中旬まで残しましょう。トンネル除去後の暴風対策として、トンネルの支柱を2〜3段間隔で残り、2段誘引テープを張ることをお勧めします。被覆を行わない場合は、支柱を立てて同様の対策を行いましょ(写真②)。



写真② ソラマメのトンネル誘引

アブラムシ対策

4月ごろから、気温の上昇とともにアブラムシが急激に増加します(写真③)。アブラムシはウイルス病を媒介するとともに、ソラマメの品質低下にもつな

アブラムシ対策



写真③ ソラマメに寄生するアブラムシ

追肥について

追肥は窒素・カリが主体の高度S842を2〜3回に分けて畝の肩や通路へ行います(表②参照)。石灰欠乏対策として、開花ごろからカルタスなどの葉面散布剤を1週間ごとに散布しましょう。土中に石灰成分があっても乾燥していると吸収ができず、欠乏症状(不稔やしみ症)を生じやすくなります。

追肥について

表② ソラマメに登録のあるアブラムシ防除薬剤一覧

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期	使用回数
アディオン乳剤	ピレスロイド系	3000倍	収穫7日前まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	4000倍	収穫7日前まで	3回以内
スミチオン乳剤	有機リン系	1000倍	収穫3日前まで	3回以内
サフオイル乳剤	—	300〜500倍	収穫前日まで	—
フーモン	—	1000倍	収穫前日まで	—

表③ ソラマメの追肥例

追肥	使用時期	肥料名	成分	施肥量(10a当たり)
1回目	3月上〜中旬(整枝時)	高度化成S842	18-4-12	10〜20kg
2回目	4月上旬			10〜20kg
3回目	4月下旬(上葉肥大初期)			10〜20kg

※気温が低いと成分が十分に吸収されない場合があるため、メリット青(300〜500倍)などの葉面散布剤で補いましょう。

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市 営農なんでも相談室 (本所 営農部内)
☎0120-972-860